

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 5 月検出分;検体採取平成 30 年 4 月～平成 30 年 5 月)

平成 30 年 6 月 12 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎（内 1 件は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎を併発）の検体 9 件（検体採取 4 月中旬～5 月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、A 群ロタウイルスが 3 件、ノロウイルス GⅡが 1 件、サポウイルスが 3 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180116	4 月下旬			検出			
180117	4 月中旬			検出			
180118	5 月上旬	検出(GⅡ)		—			
180122	5 月上旬	—	—	—	—	—	—
180123	4 月下旬	—	検出	—			
180124	4 月中旬	—	検出	—			
180125	4 月中旬	—	検出	—			
180126	5 月上旬			検出			
180128	5 月上旬	—	—	—	—	—	—
検出計		1 件 (GⅡ:1)	3 件	3 件	0 件	0 件	0 件

(—): 未検出

2 インフルエンザウイルスについて

臨床診断名がインフルエンザの検体 3 件（検体採取 4 月 25 日～5 月 8 日）について検査を実施したところ、すべてインフルエンザ AH3 型が検出されました。（詳細は表 1 のとおり）

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
12月25日	西部	1	0	0	0	1		
2018	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
	1月22日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	中部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	0	0	0	1	
	1月24日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	西部	1	0	0	0	1	
	1月29日	西部	1	0	0	0	1	
	1月30日	中部	1	0	0	0	1	
	2月1日	東部	1	0	0	0	1	
	2月2日	中部	1	0	0	0	1	
	2月5日	東部	1	0	1	0	0	
	2月5日	西部	2	0	0	0	2	
	2月6日	西部	1	0	0	0	1	
	2月9日	中部	1	1	0	0	0	
	2月10日	西部	1	0	0	0	1	
	2月13日	東部	1	0	0	0	1	
	2月14日	西部	1	0	1	0	0	
	2月19日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	西部	1	0	0	0	1	
	2月27日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	西部	1	0	1	0	0	
	3月1日	東部	1	0	0	0	1	
	3月2日	中部	1	0	1	0	0	
	3月6日	西部	1	0	1	0	0	
3月13日	中部	1	0	0	0	1		
3月15日	西部	1	0	1	0	0		
3月19日	西部	1	0	0	0	1		
3月20日	中部	1	0	0	0	1		
3月26日	西部	1	0	0	0	1		
4月2日	西部	1	0	0	0	1		
4月12日	西部	1	0	1	0	0		
4月25日	西部	1	0	1	0	0		
5月8日	西部	1	0	1	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			52	9	18	1	24	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（6月6日作成）によると、3月26日以降（第13週以降）は、AH3型が最も多く、次いで、B山形系統の順に報告されています。（図1）

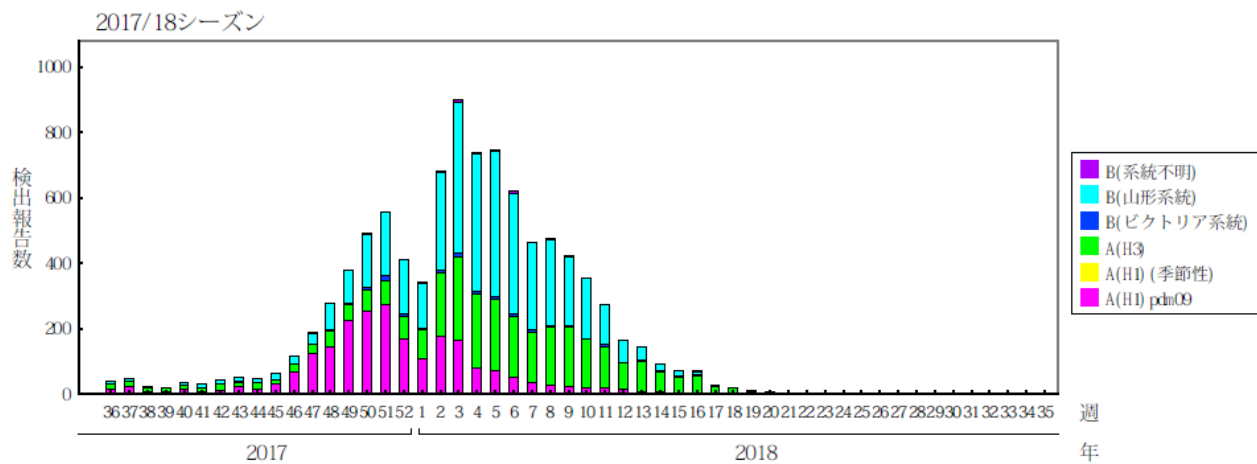


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件（検体採取4月中旬、下旬・検体番号180112、180114）について検査を行ったところ、1件（検体番号180114）からアデノウイルス56型が検出され、残りの1件からはアデノウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（6月6日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、2014年から昨年にかけて56型は3位以下の報告数となっていますが、今年（2018年）は報告されていません。（図2）

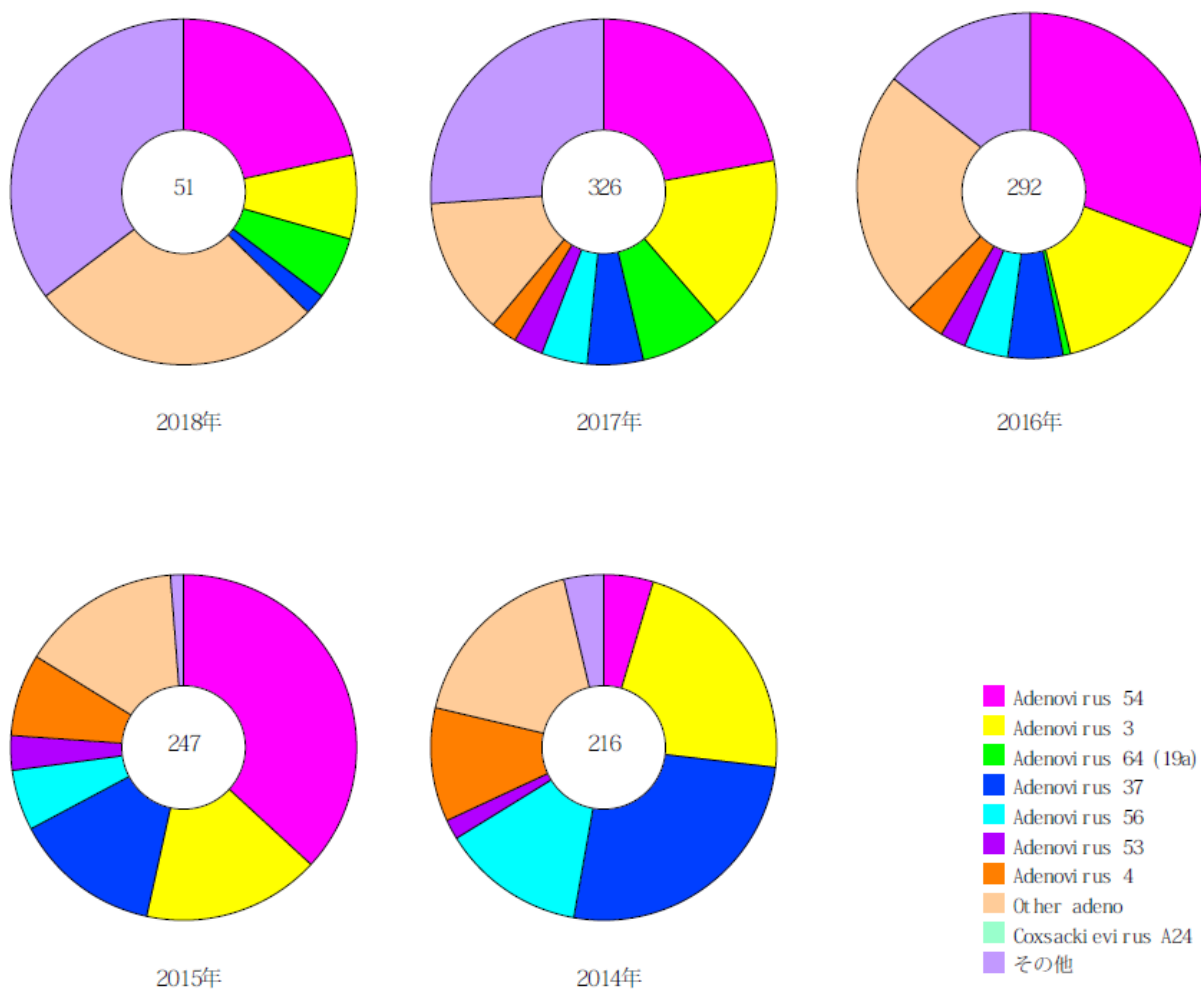


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年6月6日までに報告された数）

4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 4 月中旬・検体番号 180130）について検査を行ったところ、アデノウイルス 2 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（6 月 6 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、2016 年以降、2 型が最も多く報告されています。（図 2）

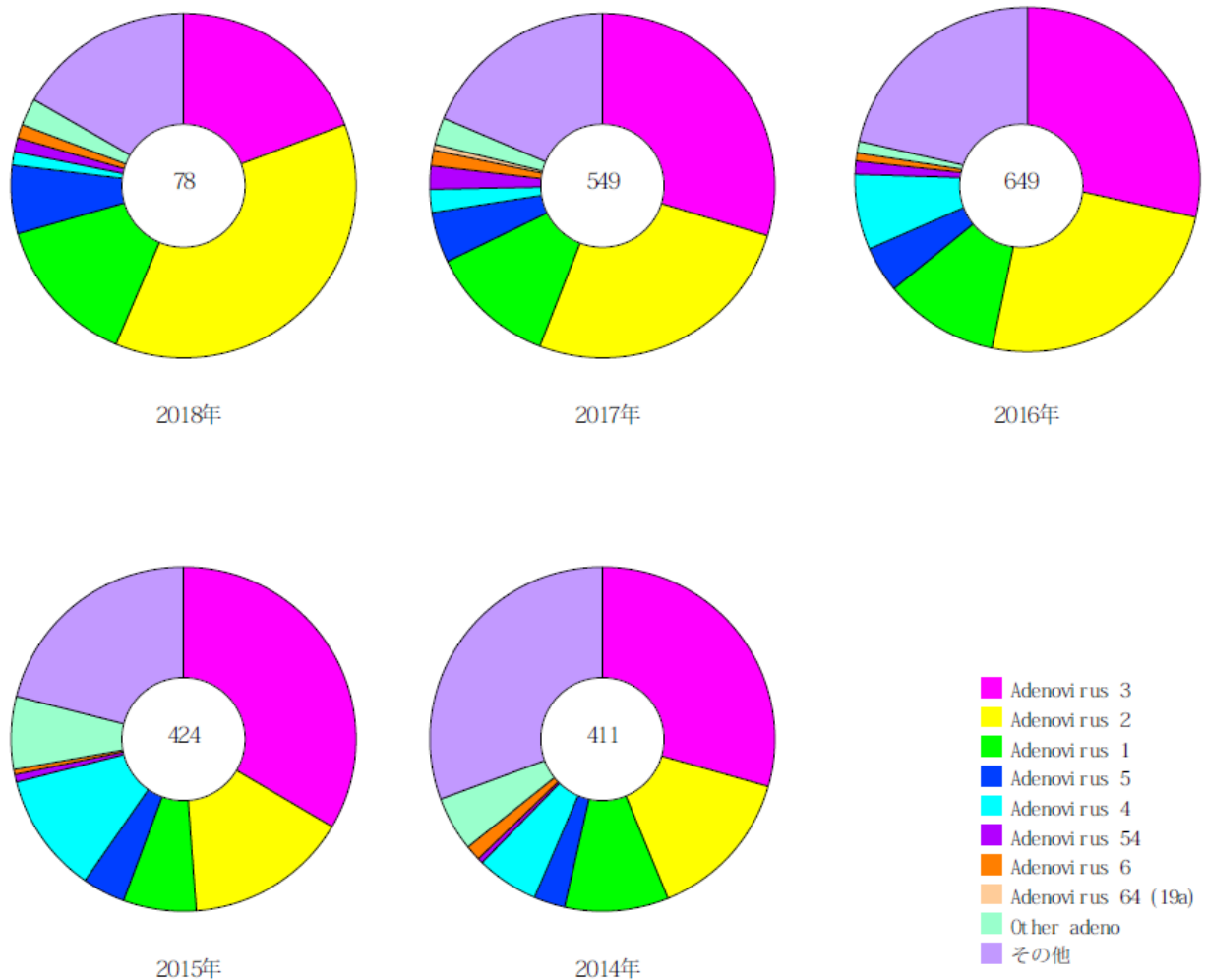


図 3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 6 月 6 日までに報告された数）

5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症（内 1 検体は感染性胃腸炎を併発）の検体 2 件（検体採取 4 月下旬、5 月上旬・番号 180127、180129）について検査を実施したところ、RS ウイルスは検出されませんでした。

6 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体 1 件（検体採取 4 月中旬・検体番号 180132）について検査を行ったところ、A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

7 急性出血性結膜炎

臨床診断名が急性出血性結膜炎の検体 1 件（検体採取 4 月下旬・検体番号 180113）について検査を行いました。エンテロウイルスは検出されませんでした。

8 水痘

臨床診断名が水痘の検体 1 件（検体採取 4 月中旬・検体番号 180131）について検査を行いました。ヘルペスウイルス 3 型（水痘・帯状疱疹ウイルス）は検出されませんでした。

9 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 1 件（検体採取 5 月上旬・番号 180115）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。これらのウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 6 月検出分;検体採取平成 30 年 5 月～平成 30 年 6 月)

平成 30 年 7 月 10 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 11 件（検体採取 5 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス GⅡが 4 件、アデノウイルス 40/41 型が 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180135	5 月？旬	—	—	—	—	—	—
180136	5 月中旬	検出(GⅡ)					
180137	5 月下旬	検出(GⅡ)					
180138	5 月下旬	—	—	—	—	—	—
180140	5 月下旬	—	—	—	—	—	—
180141	5 月下旬	—	—	—	—	—	—
180143	5 月下旬	—	—	—	検出		
180144	5 月中旬	—	—	—	—	—	—
180145	5 月中旬	検出(GⅡ)					
180147	5 月下旬	—	—	—	—	—	—
180151	5 月中旬	検出(GⅡ)					
検出計		4 件 (GⅡ:4)	0 件	0 件	1 件	0 件	0 件

(—)：未検出

2 インフルエンザウイルスについて

臨床診断名がインフルエンザ（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の併発 1 件を含む）の検体 3 件（検体採取 5 月 11 日～22 日）について検査を実施したところ、すべてインフルエンザ AH3 型が検出されました。（詳細は表 1 のとおり）

表1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
	12月19日	中部	1	0	0	0	1	
	12月25日	中部	1	1	0	0	0	
2018	12月25日	西部	1	0	0	0	1	
	1月4日	東部	1	0	1	0	0	
	1月5日	中部	1	0	0	0	1	
	1月5日	西部	1	1	0	0	0	
	1月9日	西部	1	0	0	0	1	
	1月10日	西部	2	2	0	0	0	
	1月10日	西部	1	0	0	0	1	
	1月12日	東部	1	1	0	0	0	
	1月12日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	0	0	0	1	
	1月22日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	中部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	0	0	0	1	
	1月24日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	西部	1	0	0	0	1	
	1月29日	西部	1	0	0	0	1	
	1月30日	中部	1	0	0	0	1	
	2月1日	東部	1	0	0	0	1	
	2月2日	中部	1	0	0	0	1	
	2月5日	東部	1	0	1	0	0	
	2月5日	西部	2	0	0	0	2	
	2月6日	西部	1	0	0	0	1	
	2月9日	中部	1	1	0	0	0	
	2月10日	西部	1	0	0	0	1	
	2月13日	東部	1	0	0	0	1	
	2月14日	西部	1	0	1	0	0	
	2月19日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	西部	1	0	0	0	1	
	2月27日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	西部	1	0	1	0	0	
	3月1日	東部	1	0	0	0	1	
	3月2日	中部	1	0	1	0	0	
	3月6日	西部	1	0	1	0	0	
3月13日	中部	1	0	0	0	1		
3月15日	西部	1	0	1	0	0		
3月19日	西部	1	0	0	0	1		
3月20日	中部	1	0	0	0	1		
3月26日	西部	1	0	0	0	1		
4月2日	西部	1	0	0	0	1		
4月12日	西部	1	0	1	0	0		
4月25日	西部	1	0	1	0	0		
5月8日	西部	1	0	1	0	0		
5月11日	西部	1	0	1	0	0		
5月21日	中部	1	0	1	0	0		
5月22日	西部	1	0	1	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			55	9	21	1	24	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（7月6日作成）によると、3月26日以降（第13週以降）は、AH3型が最も多く報告されています。（図1）

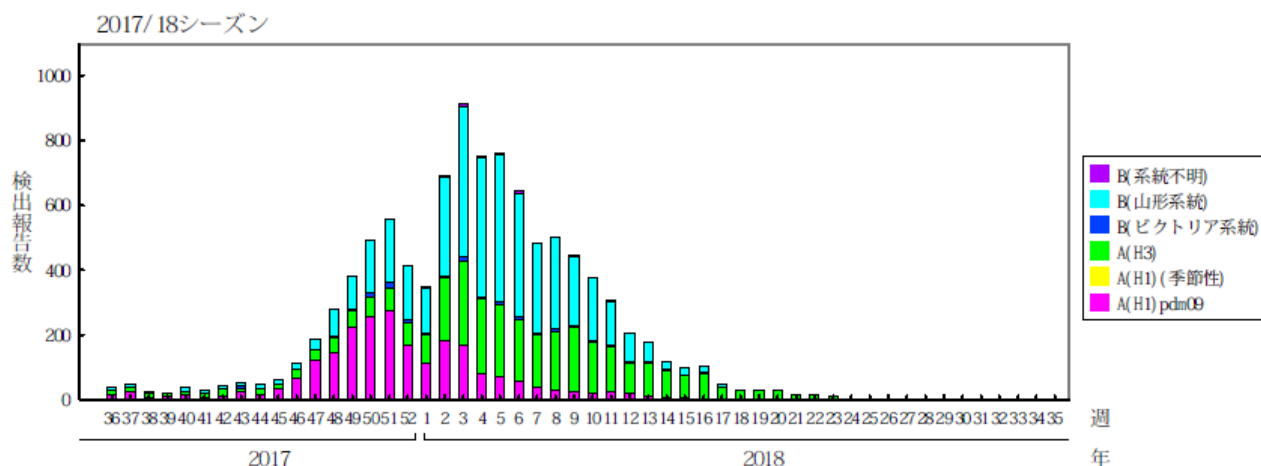


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

さらに2017年12月から2018年2月に当所で分離されたA2009型9件についてタミフル耐性遺伝子検査を実施しました。その結果、4件は感受性、5件は判定不能（ウイルス量不足のため）でした。国立感染症研究所（7月2日更新）によると、今シーズンにおけるオセルタミビルおよびペラミビルに対する耐性株の割合は1.7%であり、昨シーズン（1.1%）より増加しています。

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体1件（検体採取6月上旬・検体番号180133）について検査を行ったところ、アデノウイルスD種（37型か53型か判別不能）が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（7月6日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、2015年以降、54型が最も多く報告されています。（図2）

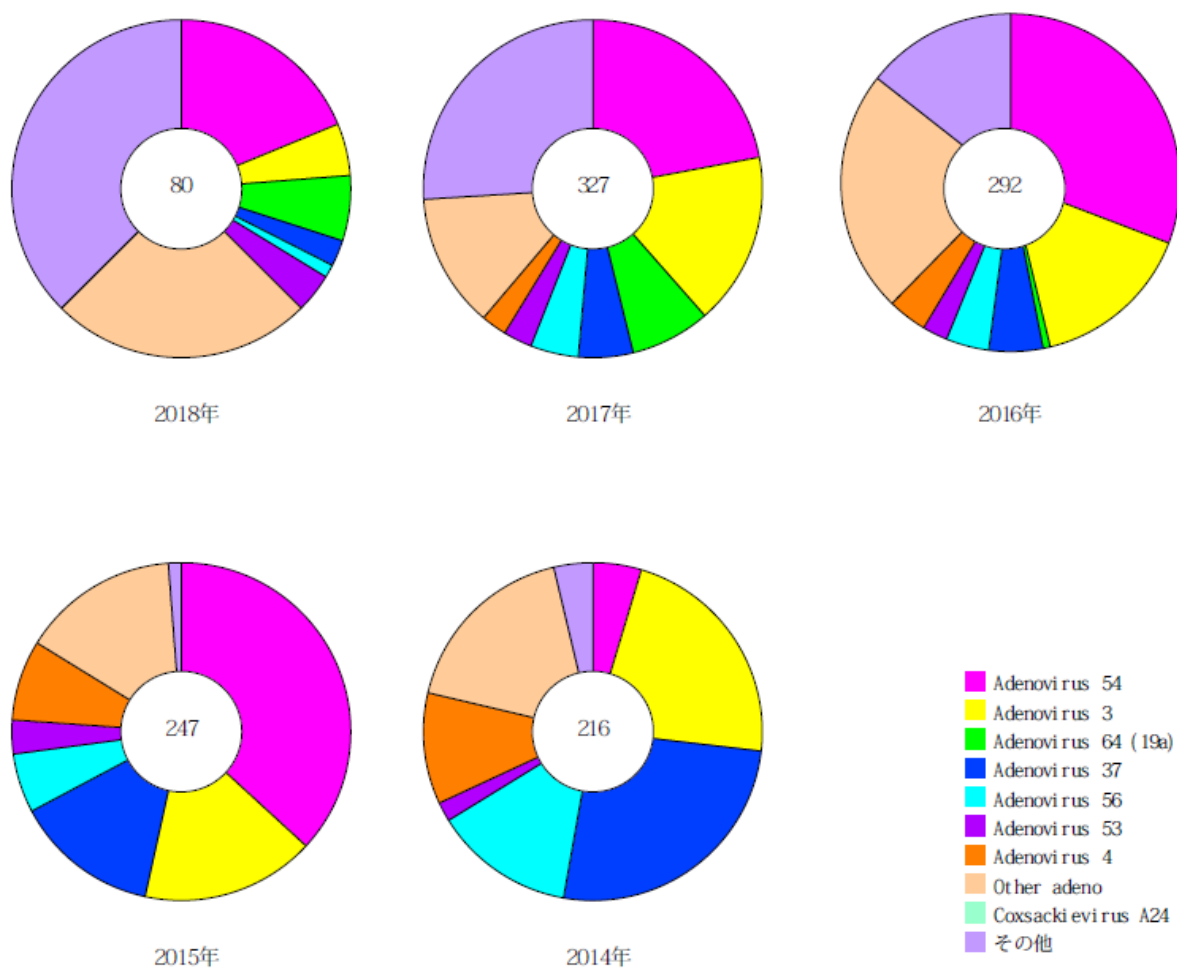


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年7月6日までに報告された数）

4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体2件（検体採取5月中旬・検体番号180146、180149）について検査を行ったところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたウイルスについては、1件（検体番号180146）が1型、残り1件（検体番号180149）は型別不能でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（7月6日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、2016年以降、1型は2～3位に報告されています。（図2）

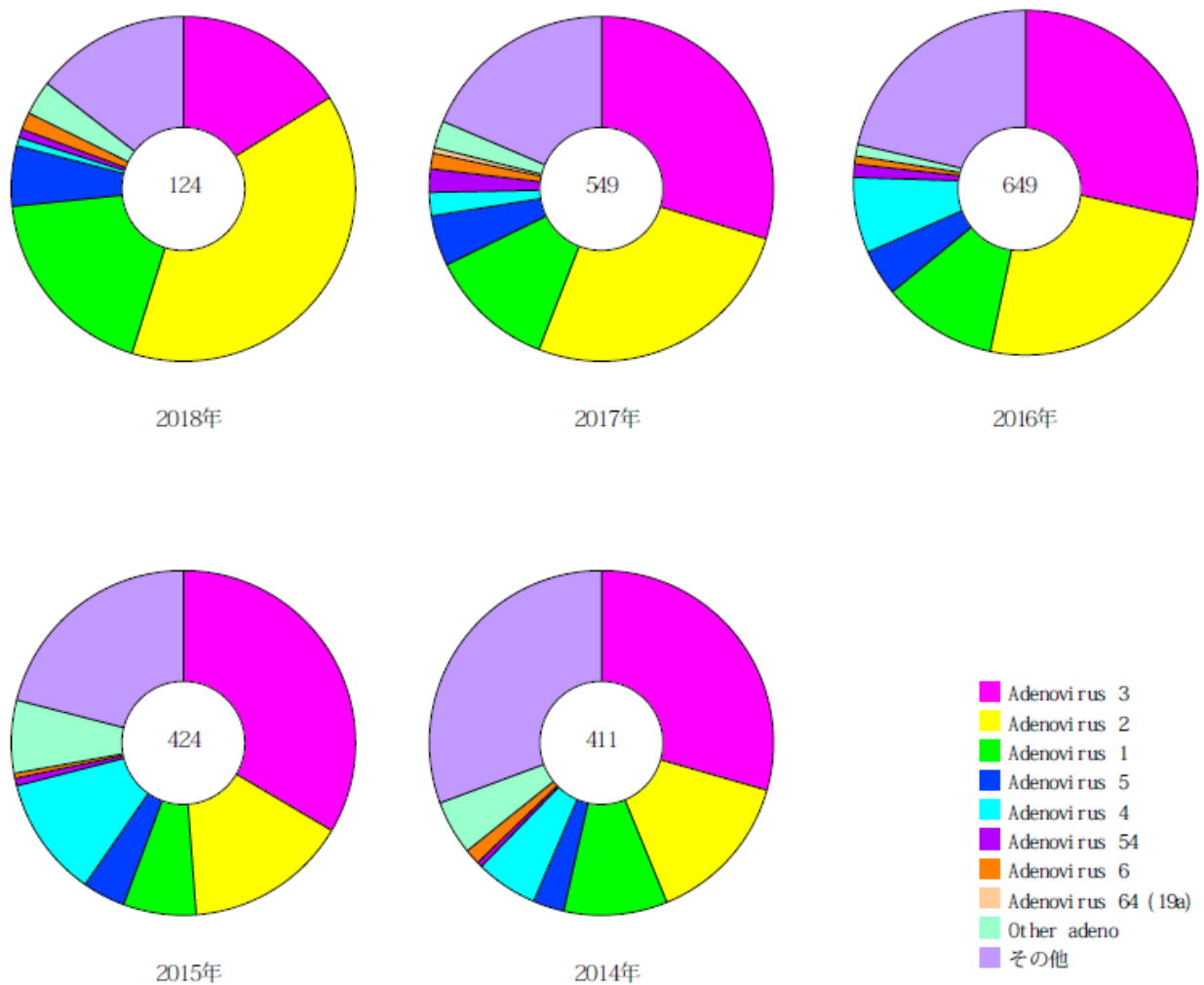


図3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年7月6日までに報告された数）

5 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の検体1件（検体採取5月中旬・検体番号180150）について検査を実施したところ、RSウイルス（B亜型）が検出されました。

6 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体1件（検体採取5月中旬・検体番号180152）について検査を行ったところ、A群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 7 月検出分;検体採取平成 30 年 6 月)

平成 30 年 8 月 9 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 10 件（検体採取 6 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス GⅡが 4 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180155	6 月下旬	—	—	—	—	—	—
180156	6 月中旬	検出 (GⅡ)					
180158	6 月中旬	—	—	—	—	—	—
180161	6 月中旬	—	—	—	—	—	—
180162	6 月中旬	—	—	—	—	—	—
180163	6 月中旬	検出 (GⅡ)					
180164	6 月中旬	—	—	—	—	—	—
180165	6 月下旬	—	—	—	—	—	—
180166	6 月下旬	検出 (GⅡ)					
180170	6 月中旬	検出 (GⅡ)					
検出計		4 件 (GⅡ:4)	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—): 未検出

2 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体4件（検体採取6月中旬、下旬）について、エンテロウイルスの検査を行ったところ、3件から検出され、残り1件からは検出されませんでした。検出されたウイルスについては、1件（検体番号180159）がコクサッキーウイルスA2、1件（検体番号180160）がコクサッキーウイルスA4、残り1件（検体番号180154）は型別不能でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（8月6日作成）によると、全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについては、今年はコクサッキーウイルスA2が最も多く、コクサッキーウイルスA4が第3位に報告されています。（2014年から2017年にかけては、コクサッキーウイルスA2は第3位前後、コクサッキーウイルスA2は、2014年と2016年が第1位の報告数となっています。）（図1）

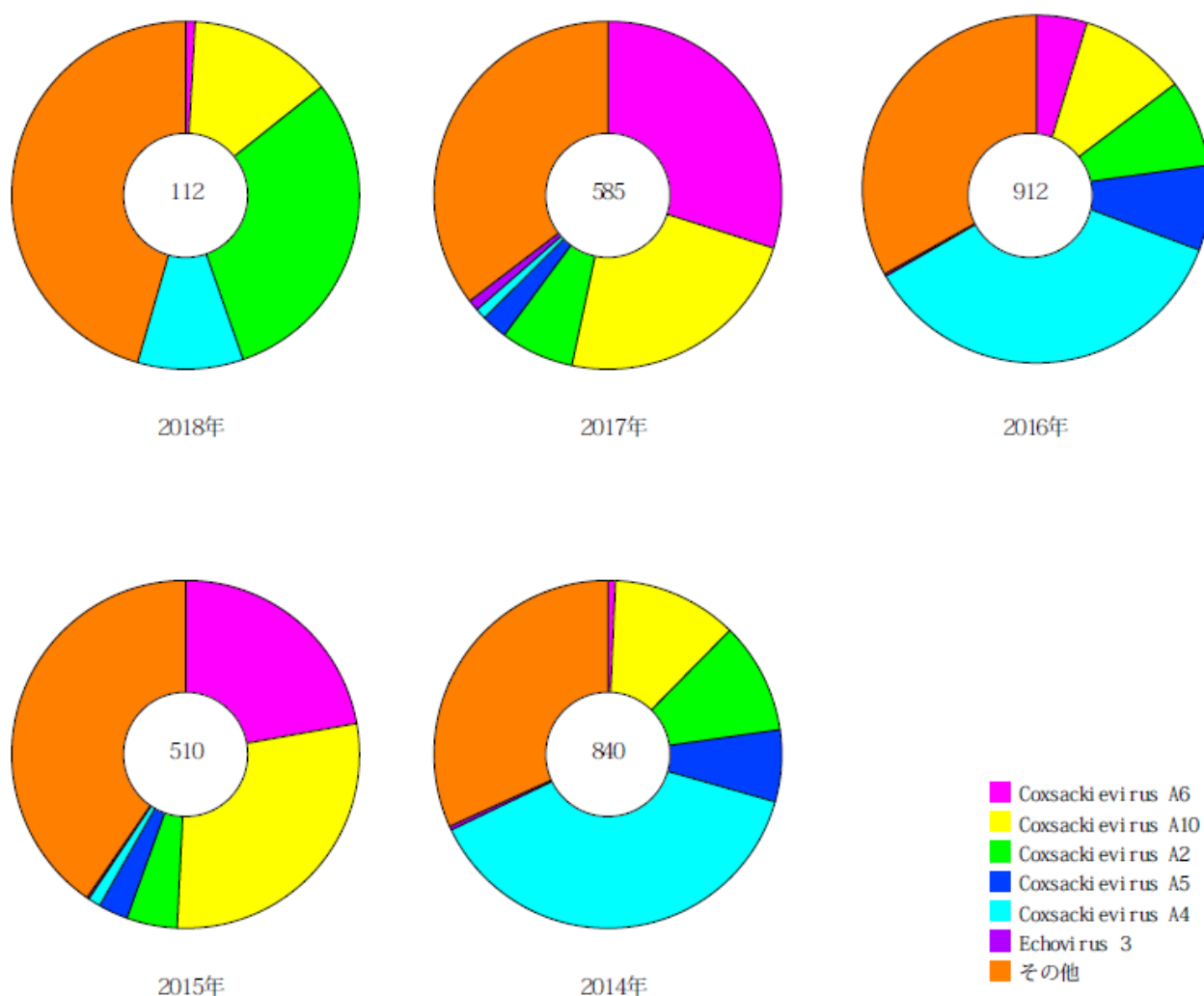


図1 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年8月6日までに報告された数）

3 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 1 件（検体採取 6 月下旬・検体番号 180153）について検査を行ったところ、エンテロウイルスが検出されました。検出されたウイルスについては、エコーウイルス 18 型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（8 月 3 日作成）によると、全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについて、2014 年以降、エコーウイルス 18 型はほとんど報告されていません。（図 2）



図 2 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 8 月 6 日までに報告された数）

4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 6 月中旬・検体番号 180168）について検査を実施しましたが、アデノウイルスは検出されませんでした。

5 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体 2 件（検体採取 6 月中旬、下旬・検体番号 180157、180163）について検査を実施しましたが、A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 8 月検出分;検体採取 平成 30 年 7,8 月)

平成 30 年 9 月 11 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 11 件（検体採取 7,8 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス GⅡが 6 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180173	8 月上旬	—	—	—	—	—	—
180174	7 月下旬	—	—	—	—	—	—
180175	7 月下旬	—	—	—	—	—	—
180176	7 月中旬	検出(GⅡ)					
180180	7 月上旬	—	—	—	—	—	—
180181	7 月上旬	—	—	—	—	—	—
180183	7 月上旬	検出(GⅡ)					
180184	7 月上旬	検出(GⅡ)					
180185	7 月上旬	検出(GⅡ)					
180186	7 月上旬	検出(GⅡ)					
180190	7 月中旬	検出(GⅡ)					
検出計		6 件 (GⅡ:6)	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

2 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体3件（検体採取7月上旬、中旬）について、エンテロウイルスの検査を行ったところ、すべてエンテロウイルスが検出されました。検出されたウイルスについては、2件（検体番号 180178、180188）がエコーウイルス 18 型、1件（検体番号 180182）がコクサッキーウイルス A4 でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月5日作成）によると、全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについては、コクサッキーウイルス A4 が第2位に報告され、エコーウイルス 18 型はほとんど報告されていません。コクサッキーウイルス A4 は、2014 年と 2016 年が第1位の報告数となっており、隔年で多くなる傾向となっています。（図1）



図1 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年9月5日までに報告された数）

3 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体2件（検体採取7月上旬、中旬）について検査を行ったところ、すべてエンテロウイルスが検出されました。検出されたウイルスについては、1件（検体番号180191）はエコーウイルス18型で、残り1件（検体番号180187）は型別不明でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月5日作成）によると、全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについて、2014年以降、エコーウイルス18型はほとんど報告されていません。（図2）



図2 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年9月5日までに報告された数）

4 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 1 件（検体採取 7 月下旬・検体番号 180171）について検査を実施したところ、アデノウイルス 56 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9 月 5 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 56 型は 2015 年以降 5 位前後の報告数となっています。（図 3）

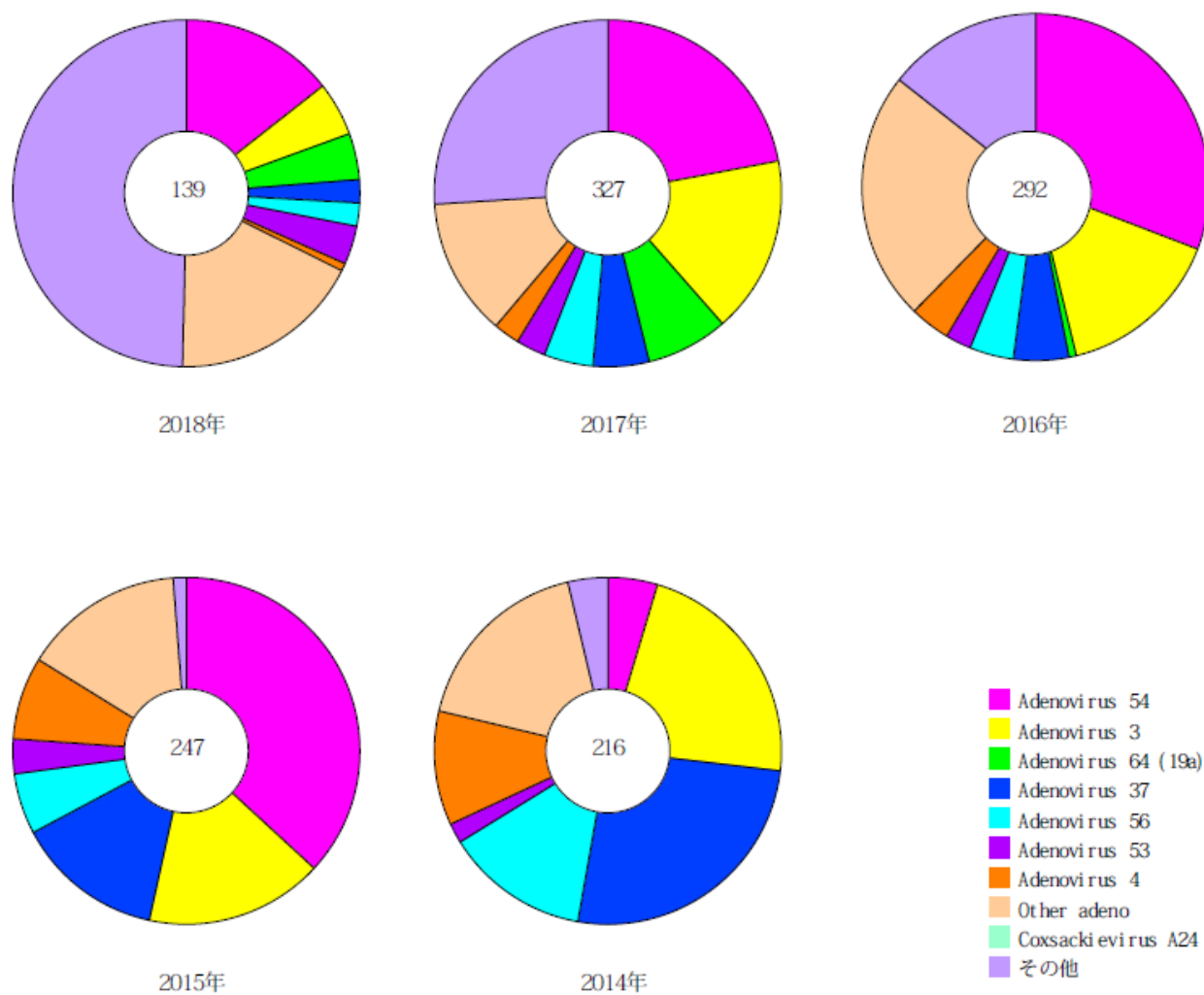


図 3 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス (2014 年～2018 年)

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 9 月 5 日までに報告された数）

5 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体3件（検体採取7月中旬）について検査を実施したところ、エコーウイルス18型2件（検体番号180172、180189）と「コクサッキーウイルスA4」1件（検体番号180192）が検出されました。なお、検体番号180192については、病院の検査でインフルエンザA型が陽性でしたが、当所でも検査したところ、インフルエンザA2009型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月5日作成）によると、全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、エコーウイルス18型は今年最も多い報告数となっていますが、コクサッキーウイルスA4はあまり報告されていません。（図4）

表1 無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2017～2018年）

2018			2017		
1 Echovirus 18	7	5.0%	1 Echovirus 6	55	10.9%
2 Enterovirus 71	7	5.0%	2 Coxsackievirus B2	38	7.5%
3 Echovirus 11	6	4.3%	3 Enterovirus 71	30	5.9%
4 Coxsackievirus B4	3	2.1%	4 Echovirus 9	20	4.0%
5 Echovirus 7	3	2.1%	5 Coxsackievirus B4	18	3.6%
6 Echovirus 30	2	1.4%	6 Echovirus 3	17	3.4%
7 Coxsackievirus A2	1	0.7%	7 Coxsackievirus A6	11	2.2%
8 Coxsackievirus A6	1	0.7%	8 Coxsackievirus A9	9	1.8%
9 Coxsackievirus A9	1	0.7%	9 Echovirus 7	8	1.6%
10 Other enterovirus	7	5.0%	10 Other enterovirus	28	5.5%
11 Mumps virus	9	6.4%	11 Mumps virus	45	8.9%
12 Other virus	94	66.7%	12 Other virus	227	44.9%
Total	141	100.0%	Total	506	100.0%

（本年は9月5日までに報告された数）

6 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体2件（検体採取7月中旬）について検査を実施したところ、すべてインフルエンザA2009型が検出されました。

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたインフルエンザウイルスについて、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月7日作成）によると、本年6月から8月にはAH3型とA2009型が報告されています。（表2）

表2 インフルエンザ患者から分離・検出されたインフルエンザウイルス（2018年6月～8月）

	6月	7月	8月
A2009型	7	10	2
AH3型	22	9	3
A型（その他）	0	0	0
B型	0	0	0